

## 三団体から成果発表

### 安全登山研修会・日高登山研修所開き

平成28年度安全登山研修会・日高研修所開きは、4月16日(土)～17日(日)に個人会員4名を含む74名の会員が参加して、道岳連日高登山研修所で開催された。

今回より、指導員総会等の各委員会会議は案内受付時間の14:00前に実施することとし、14:30開会式、15:00研修所内外の清掃を行い16:00から2時間にわたって①組織実態アンケート調査報告(荒堀総務委員長)②成果発表富良野山岳会(高見直広)、新得山岳会(富山幸朗)、登別山岳会(澤田時人)の三団体から会の活性化に関する発表③研究課題発表「雪崩事故に遭わないために」(荒堀英雄)があり、質疑の後、発表に対する講評を小野会長が行った。



加盟団体成果発表の様子

以下、研修所運営・管理役員である荒堀総務委員長の報告を掲載する。

今年の研修所開きは、従来とは趣を変えて、加盟団体からの報告や発表など「山岳会の活動」を主体にした内容となった。

組織アンケート調査では、道岳連加盟団体の現状、活発に活動しているところ、会員の増えているところ、高齢化のところ、自治体と連携などが明らかになり、今後の道岳連活動の方向性を示唆する内容。

山岳会の発表では、会合の定例化、自前での講習実施、月1回以上の山行、募集登山の実施などが報告され、会員の要望に応えること、若い会員が主体的に活動すること等が、会の活性化と会員の増加の重要なポイントであること、登山道や山小屋の整備などボランティア報告では、環境省や自治体との繋がりが大事な活動に成っていることが報告された。



研究課題の発表では、「雪崩に遭わないために」をテーマに、雪崩危険斜面を地形図により事前に見極め、安全なコースや滑走斜面を判断する内容が紹介。雪崩講習会では「雪崩埋没者をいかに迅速に探索・救出するか」に重点が置

かかれているが、発表では、自分たちの技術レベルを判断して、「雪崩事故を回避する」内容としている点、逆転の発想と言える。

懇親会では、山岳会の紹介「自分の会の良いところ、自慢できるところ」の発表を予定していたが中止した。

2日目の研修会は、早朝から雨になり、山スキー、スノーシューは中止、他の研修へ分散参加とした。SABは体育館に変更、クライミングと応急手当の講習会は予定どおり実施。装備など準備のない参加者には、急遽「地図の見方、コンパスの使い方、気象の基礎知識、高山植物当てクイズ」などの机上講習を実施した。

## スポーツクライミング2020東京五輪の追加種目推薦 「山の日」事業期間は7月11日～9月11日

日本山岳協会代表者会議 平成28年2月14日 岸記念体育館会議室

### 平成27年度事業総括

①スポーツクライミングが2020年東京五輪の追加種目としてIOCに推薦された。

SCを伴う中央競技団体(NF)のあり方、組織等について、諮問委員会(神崎委員長以下10名)の答申が、平成28年3月に得られる見込み。

- ・組織体制の見直し ・ジュニアからの一貫指導体制の確立と選手強化 ・競技施設の整備推進
- ・「日本山岳協会」の名称をクライミングがイメージできるものに変えること

②指導委員会と遭対委委員会の統合について、一般登山者教育及びリーダーの育成事業等で統合への方向性が確認できた。

③資格認定手順の仕組みの明確化やデータベース化、有資格者の登録、加盟団体構成員の登録など会員のデジタルベース化も来年はシステムの設計に入りたい。

④国民の祝日「山の日」の実施に伴い、来年度は各県ごとに「山の日」に因んだキャンペーンを展開する

・事業名は「ふるさとの山に登ろう」 ・予算措置として、申請する各都道府県に10万円の交付と缶バッチの支給を行う ・各都道府県の日本山岳会支部や勤労者山岳会支部に呼びかけて、共催の形で実施する。道民登山・市民登山とのコラボや複数山の登山でもいい 実施期間 7月11日(月)～9月11日(日)。

⑤「少年少女登山教室」未実施の都道府県が半数近くあるが、積極的に取り組んでもらいたい。

⑥財政について、スポーツクライミングの隆盛を迎え、協賛金の予算以上の収入が見られた。

⑦ホームページのリニューアル。

・タイムリー、スピーディな情報発信 … メイン写真のスライドショー採用など ・全面スマホ対応など ・専門家でなくとも記事を投稿できるシステム ・海外登山者のための英文ページの作成

### 都道府県連絡協会の報告

①行政の協力を得ている県がかなりある。 ・長野…「登山条例」が県議会を通り県よりガイドラインの作成 → 登山における県・岳連・県警の責務の確認(例; 県の責務=登山道整備、登山届の扱いなど) ・「山の日」事業に県からの補助金(山梨?)

②登山届のネット化(栃木) ③岳連の社会法人化(大阪) ④遭難救助にドローンの使用検討、加盟団体の脱退顕著(5月190団体→現在120団体)(東京) ⑤高体連加盟高校の増加(神奈川?)

(報告者 理事長 神山 健)

# 行事・各委員会事業報告

## 平成27年度 第3回理事会 3/13 札幌市民ホール

平成27年度北海道山岳連盟第3回理事会は、札幌市民ホールで65名(委任状25)の理事が出席して開催された。議件として第1号議案 日山協代表者会議報告 第2号議案 平成27年度事業報告 第3号議案 平成27年度会計報告 第4号議案 平成28年度事業計画(案) 第5号議案 平成28年度会計予算(案) 第6号議案 備品台帳 第7号議案 各種議題 第8号議案 その他 が提案された。

小野会長は冒頭のあいさつで、「山の日」制定最初の年ということで、道岳連もできるだけ協賛事業を計画したい。SCが東京五輪種目の候補となったことから、組織としてバックアップしたい。バックカントリーブームで山岳遭難事故が増加、今年も事故減少のための努力を続ける。歴史ある山岳会の脱退が続き、非常に残念な事態などを述べた。

議案審議では第1号議案は神山理事長が報告、第2号議案～第3号議案は報告を承認。

第4号～第6号議案の事業計画・予算は、行事・事業日程をHPに掲載、ほぼ前年並みの事業を組むことを各担当者が説明し承認された。

第7号議案では、「全日本登山大会 羊蹄山・ニセコ大会」が平成29年7月6日～8日に開催決定、旅行会社は東武トップツアー、今年の島根・三瓶大会に参加し視察を願いたい。全日大会準備として、今年度の道岳連交流登山会を7月9日～10日に「羊蹄山・ニセコ」で開催し、予定8コースの担当山岳会を決めたい。「山の日」記念登山会は、道内山岳9団体とともに事業を展開することが考えられるなどの説明が執行部よりあった。

道岳連三役候補は、斎藤推薦委員会委員長から三回の委員会協議や加盟団体からの推薦により、候補者が決まり、今理事会に諮る旨の提案がなされた。

第8号議案では、山岳会実態調査、研修所開きで活性化の顕著な団体の実情紹介、砂川山岳会の脱退、美唄山登山道整備の支援依頼、トレランコース整備、事業リーフレットの内容、大雪山登山道のグレードについてそれぞれ説明があり、理事会を終了した。



## 冬期遭難対策研修会 12/5-6 ニセコ五色温泉周辺

12月5日午後から6日にかけて、ニセコ五色温泉周辺において、参加者15名スタッフ6名の合計21名にて遭難対策研修会を開催いたしました。12月に入っても積雪は20cm程度と少なく、雪崩研修開催が危ぶまれましたが、4日からサハリン沖に三つ目玉の冬型低気圧が接近、1m以上の降雪があったため無事開催することができました。雪降りの中、遠方より参加する人もあり、道中は大変であったと思います。

1日目は荒天の中、野外においてシーズン初めの安全確認、ビーコンの操作やプローブを使った捜索などを実施、忘れていた捜索の手順やビーコンの特性、捜索方法についてみっちり研修を行い

ました。3時半からは室内で、道内の遭難事故について6年前のトムラウシ山大量死遭難事故以来、例年50件前後と事故は減らず推移してきたが、今年は10月までに94件と異常な状態となったことの報告があり、51件においてヘリが出動したことと、その遭難の特徴や山岳保険の必要性について研修しました。

続いて冬の登山でのロープや器具の使い方について、雪山の縦走中に雪庇の踏み抜きや穴に落ちた時など、本人に怪我がなければ2分の1を使い引き上げられる技術。そのほか3分の1、自己脱出の際のプルーチック結びやガルダーヒッチなどについて研修しました。

雪崩時の遭難救助コンパニオンレスキュー（セルフレスキュー）の優先について、第一に自己の生命、遭難者の生命を優先しなければならないこと、また、遭難時の対応など危機管理について研修しました。

2日目は、宿营地より300m先の道路除雪終点付近の積雪1.5m程積もった場所において、前日習った手順に従い、捜索と雪崩埋没体験を研修しました。埋没体験では30～40cmの雪を被っただけで身動きできず、雪が体にかかる重圧感と閉塞感で恐怖を感じた人がほとんどでした。顔の前には出来るだけ空気だまりを確保することで、延命の可能性が高くなることなどのほか、同時にビーコンとプローブを使って人体に触れた時の感覚など、実践に近い状況での研修を行いました。最後に、体感的に研修できたことが良かったとの声が聞かれました。

（報告 遭難対策委員長 齋藤 邦明）



室内でのロープ操作の研修



雪崩埋没体験

## 山岳スキー指導員研修会 12/19-20 札幌国際スキー場ほか

平成27年度の山岳スキー指導員研修会は「初心者及び中級スキーヤー研修会」として、12月19日～20日に札幌国際スキー場と大沼山においてスキー研修が行われました。

全道各地より札幌国際スキー場鐘の広場に集合し、それぞれの班に分かれてスキー研修に向かう。まずはケガ防止のための準備体操を行う。天候は小雪が舞ってはいるが、風が無いのが幸いです。

初日、リーダーよりきめ細かい指導が入る。まずはプルークですが、スキーを開いたり閉じたり、斜滑降は横滑りから停止、山回りターンは外のスキーの加重を意識し低い姿勢で停止。これに谷回りターンを加え連続することでパラレルターンの完成である。

実際に深雪になった場合は山開きシュテムターンやこれに上下動を加えた体重移動が大事です。深雪のショートターンの練習としては、開きの小さいプルーク



から脚を押し出すように左右交互に荷重してリズムカ  
ルに行くことが大事です。日頃から目的をもって練習することが大事です。

ゲレンデスキーの研修が終わり、それぞれ定山溪の宿泊所に向かう。到着後さっそく座学研修で  
す。指導員より地形図からのベアリング表の作成や、冬山では重大事故につながる雪崩についての  
講義がありました。冬山では重要な内容ですので、皆さん真剣に講義を受ける。

この後は、皆さんが楽しみにしている実情交流会の始まりです。それぞれの自己紹介から始まり、  
皆さん近況等の話で盛り上がり内容のある交流会でした。

2 日目は、実践山岳スキーです。宿泊所から大沼山登山口である豊羽鉱山の駐車場に向かう。体  
操をし、それぞれの班でのミーティングを行い、  
S字カーブ付近から登山開始するが、急斜面のため意外と皆さん苦勞する。天候は曇り空である。  
雪不足のためルートを選びながら小刻みなターン  
を繰り返しながら進み、途中雪崩弱層テストを行  
う。頂上手前でインディアンツェルトを張り昼食  
にする。テントの中では、雪でテーブルを作りガ  
スストーブで暖を取り食事をしたが、初めての人  
もいて感動した模様です。



下山は雪が少なく、ブッシュが出ている所があつ  
たため、慎重にコースを選び登山口に向かう。

全員無事に下山し解散する。本日は皆さんお疲れ様でした。 (報告 指導委員会 相馬 範昭)

## 氷壁講習会 1/16-17 層雲峡銀河の滝

本年度の氷雪技術講習会が2016年1月16-17日の日程で層雲峡銀河の滝で行われ、講師2名と参  
加者9名(1名が17日のみ参加)の合計11名が参加しま  
した。16日は天気も穏やかで予定通りに集合、環境省の  
下見の方も合流、12時頃より講習開始。本日の10名は、  
昨年の参加者も多く、久しぶりのアックスやアイゼンの  
打ち込み方など基本的なおさらいをした後、トップロー  
プ3本を張り、順番を変えすべての所を登ってもらい15  
時頃終了。気温は低いですが、皆さん楽しく登っている印  
象を環境省の方に与え終了しました。



宿に戻り夕食後、基本的なアイスクライミングの机上講  
習を行いそのまま懇親会へ。今年度2回もネパールへ登山に行った方のスライドショーを肴に盛上  
りました。

翌17日は日帰りで参加した1名が加わり、総勢11名で銀河の滝に集合し講習開始。経験者が多  
いので、2組に分かれて滝の上部まで行くことにします。下部2ピッチはノーロープで登り、上部2  
ピッチを滝中央と右側に取付き、全員が落ち口に立ちました。寒い中の長時間待機あり、きつい登  
りありで大変な方もいました。

懸垂下降も無事終わり、解散は予定を大幅に超えた16時過ぎでした。

昨年や一昨年の参加者の多い構成で、ある程度の経験者が揃ったので落ち口まで到達でき、充実  
感はひとしおだったかと思います。人数が多くロープワークや下降などに時間がかかったのは、こ

れからの経験でカバーできるかと思えます。やればやる程上達できるので、頑張って頂ければと思います。

また、指導員をお持ちの方にもお手伝いを頂き非常に助かりました。有難うございました。

(報告 海外委員長 工藤 寛)



## 山岳スキー(氷雪)技術研修会 2/20-21 三段山周辺

2015年度の山岳スキー(氷雪)技術研修会は、2016年2月20日～21日、白銀荘を拠点として三段山周辺で行われた。

参加人数は受講者14名(個人会員6名)、スタッフ7名とまずまずの人数となった。全道各地、遠く枝幸町や中川町、斜里といった処からも参加していただき感謝。そんなやる気満々の雰囲気にも水を差すように天気が今一つ。21日は太平洋岸天気が荒れそうな状況のため、研修内容の一部見直しを迫られたが、最終的にはそれ程天候は荒れずに済んだのは良かった。

初日は午前10時に白銀荘に集合し、3班に分かれてA班、B班はアイゼン&ピッケルワークを、二段目付近にて実技研修、C班は時間の許す限り山頂まで行けるところまで登った後、深雪研修をすることに行程を変更した。11時、ストレッチング、ビーコンチェックを終えて出発。進行方向には前十勝も見えている薄曇りの下、気持ちよくトレースを踏んで途中弱層テスト等の実技研修を交えながら各班は現地へ向かい、各々実技研修に汗を流した。

15時には各班白銀荘に集合し、机上研修「深雪滑走について」をC班リーダーの質疑応答にも熱のこもった時間が過ぎた。その後は入浴、夕食、実情交流会と夜は更けてゆき、消灯時には暖房が利きすぎた暑すぎる大部屋のそれぞれ布団の上に倒れ込んで行ったのでした。

翌日は、低気圧が逸れたお蔭で大荒れにはならず、C班は深雪滑走研修を充分に出来たようでした。A、B班は「アイゼンワークとピッケルの基本技術」、「雪崩レスキュー」、「スタンディングア



ックスビレイ」の机上研修後、白銀荘横の斜面を利用してスタンディングアックスビレイの実技研修を行った。無事に実技研修も終わり、12時半に閉会式を行い解散した。

今回の研修会は、個人会員が6名も参加していましたが、個人会員の方々には今後も多くの研修会に参加して技術の習得とレベルアップに努めてもらいたいと思います。それが安全登山につながって行くことになると期待します。今回の研修会に参加された皆様二日間お疲れ様でした。

最後に食事のお世話をしていただいた藤木たか子さんには大変お世話になりました。有難うございました。

(報告 指導委員会 石川 孝一)

## 受講者感想

夏に登山を楽しんでいましたが、「冬にも山に登りたい！」と山スキーを購入し、1月末に個人会員となり、初めて参加させていただきました。

1日目は、三段山のピークを目指して出発。まだソロでの雪山山行しか経験がなかった私にとって、みなさんには当たり前であろう列をなしてのシール登行からわくわくしておりました。周囲の白い雪を纏った木々や、天候に恵まれて堂々とした姿を見せていた前十勝、高度を上げて見渡す麓の景色… 見るもの全てが素晴らしく、(今回の研修会に参加してよかったなあと思いました。) 途中シールが滑りそうなどころでは、スキーを雪面に軽くたたきつけるようにすると登りやすいことを教えてくれました。先日の雨で二段目のところでは、雪面がカリカリでそこから下山することになりました。(当日に登っていた犬を連れた一般の方は登ったのでしょうか? 登っていたら犬すごいですね。) 講師の荒堀さん、西島さんと参加したみなさんの気持ちのよい滑りを見ながら、私もふわふわとした雪質を味わい滑ることができました。

2日目には、山スキーの技術向上を目指し、樹林帯で練習。安全に滑るための山回りターンやシュテムターン、そして深雪で有効なベンディングターンを習いました。ベンディングターンにつながる直滑降での膝の曲げ伸ばしが難しかったです。今後も練習を続けたいと思います。

また、雪山は天候や雪崩の心配などがあるので、今後も参加させていただき、安全・知識・技術・装備…など、多くを学んでいきたいと思います。

最後になりましたが、藤木さん、夕食・朝食を用意してくださりありがとうございました。とてもおいしく元気が出ました。(C班 個人会員 K・T)



## 山岳スキー技術研修・強化合宿 3/19-20 暑寒別岳

山岳スキーの技術向上と交流を目的として、増毛の山スキー登山の主峰・暑寒別岳を、日本海を見ながら標高差1200mの大滑走する、研修・強化合宿を3月19日～20日、15名が参加し実施した。

### 増毛山岳会に感謝です

3月の暑寒別岳はフカフカの深雪だが、少人数ではラッセルは歯が立たない。道岳連の仲間て人数を掛け力任せで深雪を切り込む。そして、山頂から1200mの落差を日本海を見ながらの大滑降を楽しむ予定であった。しかし、今年的气候は私たちの味方ではなかった。19日は雨模様、幸いにも入山の頃には雨も上がりアウターを脱いで小屋まで4.3kmを進む。道岳連では久しぶりの山小屋山行で食事の準備を行うが、皆慣れた手つきで短時間で終了。海沿いを通ってきたため、浜益のたこ、増毛のボタンエビが並ぶ豪華な食事。21時に終了し就寝。

20日はまだ暗いうちに起床し、皆で食事の準備をしてゆったりと出発を待つ。夜のうちに小屋周辺で5cm程の降雪。冷えたため、降雪がなければカリカリ斜面が続くと思ったが、シールが良く効き歩きやすい。山頂方向を見るとガスの中。風がなければ行けるが、果たして風はあるか? 800m辺りからガスが掛かり見通しが効かなくなり、コンパスを当てルートを決めて歩く。1000mからは斜度が徐々に強くなりカリカリ斜面が出てくる。カリカリを避けフカフカの雪を探しながら斜面を上がって行く。1050mでフカフカ雪が無くなり、カリカリ斜面が支配している。各班のリーダーが協議をしている最中に風が強くなり撤退を余儀なくされた。

50m程そのまま下り、風が弱くなってやっと下山準備。しかし、視界は利かず目印テープとデポ旗を探しながらの滑走。30分位下ると視界が利き皆本領発揮。15cmの深雪を蹴散らしながら休憩を挟み山荘に到着。3月の暑寒別岳は厳しかったが、林道のアプローチが一番辛かった。

(報告 指導委員長 藤木 晴夫)

## 冬山講習会 Part1 1/16-17 元服山・大黒山

初・中級者を対象にした道岳連冬山講習会の第1回。仁木町の元服山(477m)、翌日は大黒山(725m)をベースに、深雪に慣れ親しむこと、そして「冬山のリスク」について勉強する。受講者は遠く稚内、北見枝幸、別海、函館からも。山岳会に加盟していない愛好者4名、基礎講習に意欲的な山岳会会員8名、道岳連個人会員8名の20名、スタッフ8名(うち調理担当、ドライバー各1名)の合計28名が参加した。

### 【行動概要】

1/16(土) 9:30 「仁木町山の家きょうどう」打合せ→11:00-12:30 元服山→12:40-13:30 前庭でピーコントレーニング、雪洞制作 →5:30 座学(冬山のリスクほか)→17:30 夕食(就寝 21:30)

1/17(日) 7:40 移動→8:10-30 登山口→12:20-30 大黒山(東P723mからの北尾根)→13:50 登山口(スノーシュー) 14:50(スキー)→15:20 閉講式→15:40 解散



### 受講者感想

#### (個人会員 Yさん)

2日目の大黒山へはスノーシュー班とスキー班に分かれて登りました。7時40分、宿泊先「山の家きょうどう」を出発。30分くらいで登山口に到着。準備をし、準備運動をして8時30分登山開始。スキー班は全員で13名。登山開始時の気温は-11℃、天気は快晴。

交替でラッセルしながら歩きました。自分が先頭になると、どのルートを歩いたらいいか判断しなければならず、体力的にも精神的にも負担がかかります。事前にルートを把握しておくことが気持ちの余裕につながるのだと思い、山に登る前の計画をしっかり行うことの重要性を感じました。

下山開始予定時刻の12時になり、標高650mの所で休憩。12時35分に下山開始です。雪が深く木と木の間を滑っていくので緊張しながらの下山でした。リーダー、サブリーダーの「ゆっくり行こうね」「斜めに滑ってキックターンして」などの声掛けに後押しされて下山することができました。2時50分にスキー班全員登山口に到着することができました。



### (一般参加 Tさん)

スタッフの方の顔ぶれも懐かしく、初日から緊張することなく楽しく過ごすことができました。

初日は全員がスノーシュー体験で、晴天のなか元服山へ。私はスノーシューを履くのは初めてでしたので、感覚を確かめることができ良かったです。膝ラッセルくらいの積雪がありましたが、他の人にペースを合わせ、決して急がず、無理をせずに疲れる前にラッセルを交代しながら山頂へ。スタート地点と登攀途中では地図読みとコンパスの実践もあり、独学で覚えていたコンパス読みも、下山時にはコンパスを触らずに針を「赤ー赤」から「赤ー白」に合わせることで下山方向が一瞬で判るということをお教えいただき、まさに目から鱗が落ちた… でした。

下山後は広場でビーコンを使った搜索練習、雪洞作り、ピットチェックなどを全員が真剣に取り組みさせて頂き、何よりも実践と練習の積み重ねが重要だと思いました。

二日目、私は山スキーで晴天のなか大黒山へ。初日同様、トレースなしの深雪の中をラッセル交代しながら班別に向かいましたが、今年は雪が少ないため沢が出ていて、ラッセル時のコース選択が難しい場面もありました。そんな状況のため、残念ながら時間が無くなり山頂には立てませんが、参加者全員がそれぞれにリーダーやサブリーダーの方にコース取りやシール登攀のコツなど、様々なアドバイスをもらいながら登り、下りは深雪の中を思い思いのシュプールを描きながら下山し、気持ち良い登山ができました。

今回の宿泊施設の食事は自炊だったのですが、食事づくりに駆けつけて下さった女性スタッフの皆さんが、美味しいカレーやサラダを作ってください、漬物もたくさんの方が持ち寄ってください、北見枝幸からはホタテ刺身とクコの差し入れがあり、至れり尽くせりの食事で全員が盛上った懇親会でした。

今回の講習では得るものが多かったと思っていますが、皆さんにとってそんなの当たり前だよ。という事でも、まだまだ私には知らない事がたくさんあります。安全に登山するためにも、これからも技術や知識をしっかりと習得したいと思います。

### (個人会員 Mさん)

登山を始めて2年5ヶ月、3度目の冬を迎えました。今年はしっかり勉強して、もっとディープに山を楽しみたい！と思い個人会員へ登録させていただきました。正直、ひとりも知らない世界へ飛び込むのはとても勇気がいりました。が、とても楽しかった！参加して良かったと思っています。

今回の練習目標は、我流で学んできた読図の確認と、三種の神器の取扱いについて学ぶこと、でした。講師の方々、山の先輩達と楽しく真剣に取り組むことができ、目標を達成したと実感しています。実践ではラッセル交代のタイミングやルートの取り方、破損したスノーシューの応急処置など、多くのことを学ばせていただきました。また、ひとりでは味わえない、皆で登ることの喜びを感じ、下山後もバスの中も楽しい時間を過ごすことができました。2月の講習会も楽しみにしています！

## 冬山講習会 Part 2 2/6-7 日勝峠周辺・日高青少年自然の家

一般登山者向け冬山講習会の2回目は、2月6日(土)～7日(日)に日勝峠周辺及び日高青少年自然の家で、参加者33名(受講者;一般5名、個人会員6名、山岳会員15名 スタッフ;9名)で開催した。

### 1日目 曇りのち雪 (西の風6～7m 気温 -10℃)

小グループに分かれて、冬山登山の基礎を、楽しさを学ぶことが目的。日勝峠のパウダースノーとテレマークスキーWC 5位の講師が魅力で、道岳連個人会員や山岳会会員の参加者が多い。1日目は緩斜面と柔らかい雪が溜まっている1327P東斜面をトレーニングエリアとした。山スキーの初級・中級班は何度か上がり下がり。上級班は1327Pの裏側にも滑り込む。スノーシュー班は1327Pから変化の多い森中へ進む。テレマーク班は、日高国際スキー場で基礎固めに専念する。

夕方の座学は、傾斜を地形図からどう読み解くか。そして、北日高エリアのスキーの魅力と地形、高価なスキーグッズの正しい見方、買い方。交流会では自己紹介や道岳連講習会への希望等で盛り上がる。

### 2日目 雪 (西の風7～8m 気温 -15℃)

順調に事業が進むと思いきや、朝起きると体調不良2名、施設や近所の温泉でお休みいただく。昨日と同じ編成で、1445Pとペケレベツエリアへ向かう。山スキーは1445P東面で基礎に徹する班、Pから裏に回る中級班、ペケレベツを勾配のある日高側から往復する上級班。スノーシューもペケレベツを日高側から往復。テレマークグループはパウダーを求め1445Pから南面を狙う。

気温-15℃の冷たい雪降る中、しかし、風を避け、レベルに応じて各パーティーは成果を得、午後2時20分に日勝峠に全員集結、閉会式・解散となった。(報告 普及委員会 秋元 筈男)



### 受講者感想

(ロビンア山岳会 佐藤) 山スキーの技術を少しでも向上させたいという思いで、冬山講習会に初めて参加させていただきました。

1日目、私の所属していたグループは、熊見山北西方向にある1327峰に向かってコンパスの使い方と抜き上げキックターンの練習をしながら登りました。深雪の中に潜ってしまい抜き上がらなかった私のスキー板も、懇切丁寧な指導のおかげでスムーズに動かせるようになりました。滑りは、グループの皆さんがとても上手でまぶしく見えました。下りてからまた登り返して、気持ちのいい斜面を滑りました。帰ってからの座学では、雪崩の発生しやすい斜面を等高線から読み取ること等を学ぶことができ大変ためになりました。

2日目は、日勝トンネル手前付近からスタートして少し回り込んで、通称ホリゲレンデと呼ばれる斜面に出ました。見事なオープンバーンに気持ちが大きくなり、思い切って体の上下動を試すことにしました。ストックと体の上下のタイミングがあわないことが多いのですが、そのうちに偶然

合ったのか、フッと軽くなり初めてターンできた時には感動してしまいました。奇跡は続かず、次のターンでは転んでしまうのですが、何とかできるようになるのではないかと、という感触を得ることができました。この感覚が消え去らないうちに練習したいと思います。

登り返して一人雪洞を作りビバーク練習もしました。雪洞の入口に使うツェルトは三種の神器と同じくらい重要だということをお聞きし、是非用意したいと思いました。

今回の講習会では、少人数グループ編成だったので、細やかで内容の濃い指導を受けることができました。また、夜の懇親会では「次はこんなことがしたい」という話に意欲と情熱を垣間見ることができ、良い刺激になりました。

**(札幌山の会 大瀧)** 「テレマークスキー」と聞いて、どんな滑りをイメージするだろう。両脚を前後に広げて、腕をやじろべえのようにヒラヒラさせ、片膝を折って上下動しながらの大回りターン。10数年前、すでに時代遅れだった細板革靴スタイルでテレマークを始めた自分には、いまだにそんなイメージが根強く残っている。そう、ゲレンデで「おとうさん、あの人変な滑り方だね」と見知らぬ女の子に後ろ指さされようと、動画サイトに「Mild Seven TVCM Telemarkski '96」でヒットする、あの踊るように優雅な大回りターンこそテレマークの魅力なのだ…と。

しかし、技術的な伸び悩みに影響を与えていたそんな固定観念が、今回の講習会で見事にブレイクスルーされた。1日目は、上野講師の提案もあり、ゲレンデでの講習。結果的にこれが2日目の大成功につながった。重点テーマは、「重力を使い楽するテレマーク」と「板をトの字にしてスピード制御」。昨年の講習会でも教わった内容だが、体得するに至ってなかった。特に楽するテレマークは、とりあえず朝一で1本滑り、すでに太ももが辛かった自分にとって「これか!」と思えた瞬間本当に目からウロコだった。

そのコツをおさらいすると、「①ターン後半の外傾 ②ターン前に足を入れ替えない ③ターンで上下動をしない ④ストックをなるべく遠くにつき最大傾斜線に単純に体を投げ出す」特に③は今まで囚われていた「テレ上下動説」を覆すほどの、コペルニクスの回転方法だった。後足(山足)がスッと抜けるのである。

非常に濃い内容の講習を終えたテレ班それぞれが期待をふくらませ挑んだ2日目は、日勝ピークからペケレベツ岳方向への標高差100mほどを登り返して滑った後、ピークに戻ってオープンバンを求め右手へしつこく下の方まで楽しんだ。今まで深雪になるととたんに滑りが崩れる自分だったが、この日は前日の講習内容に加え、深雪では積極的なドルフィンターンを利用すべしとの助言を得て、何とかコントロールの効いた「縦方向」への滑りができた。

非常に寒い日だったが、上野講師に加え、難波さん、西嶋さん、私のおなじみテレ班4名は熱く燃え、昨シーズン実現できなかったテレマークの集い実施を約束し帰路についた。



**(個人会員 吉川)** 私は冬山講習会 Part1 も参加しており、スノーシューの楽しさ、皆でラッセルしながら進む面白さを知りました。2年前から地元の低山をラッセルしないですむ3~4月頃、熊

の冬眠明けを気にしながら単独冬登山をしていました。団体行動登山も本当に楽しいですね。今回もスノーシューで参加です。初日の目的地は、日勝峠周辺の1327m峰。熊見山。バスを降りて危険な道路の横断を終え、スノーシューを準備してコンパスを1327m峰に合わせます。順調に登っているとだんだんと天候が悪化、途中、ピンクテープのマークを二か所つけ1327m登頂。万歳！この後、熊見山への縦走を予定したが、それどころではない。まわりの景色はなくなり猛吹雪、ホワイトアウト状態。サングラス、ゴーグルはくもり前が見えづらく、肌が出ている所は痛い位の寒さ。さっさと下山、コンパスを使いピンクテープ二箇所を見つけて到着しました。ピンクテープの使い方、コンパスの使い方を学び大変貴重な体験ができました。

自然の家に戻ってきてから座学講習（雪山歩きの基礎）。雪崩の起きやすい斜度、地形図を見て山の斜度がわかる方法、斜度35～45度は雪崩が発生しやすい、入ってはいけないなど、冬山登山を満喫できる山が多いようです。（北日高の魅力）スキースポーツには二種類あり、障害者スキーには三種類のオリンピックがあるのは知りませんでした。スキーのことで質問が多く出ていましたが、専門用語が多く私には意味不明（生涯スポーツの現状）。

19:30から懇親会が始まり、アルコールを飲みながら山スキーDVDの上映。あちこちで凄い、カッコいい、素敵。黄色っぽい声援が飛んでいました。確かに凄い。スノーシューのDVDはないのか？…駄目だ、映像が地味すぎて、変な声援しか聞こえそうもない。上映が終わり普及事業恒例の自己紹介バージョンに突入。自己紹介、近況報告、普及事業でしてもらいたいことなど、要望がたくさん出ていました。テント泊登山がしたい、沢登り登山がしたい、縦走登山がしたい、クライミングがしたい、トムラウシ、幌尻岳に行きたいとか、いろいろ叶えてやってください。

2日目は6:00起床、朝の集い、朝食を摂り8:00に日勝峠周辺へ出発。今回は班ごとに行き先が違い、日勝ピークに向かう班、ペケレベツ岳に向かう班と様々。スキー班各4班、スノーシュー班等、各班散らばって行動です。スノーシュー班は1343mペケレベツ分岐まで行く予定。登山口からはスキー班Aのあと、スノーシュー班がスキーのトレースを借りながら出発。スキー班に追いつきそうで追いつけないスキー班の速さにはびっくり。かなり体力のある猛者の集まりではないか？スノーシュー班は黙々と登り、1163m辺りから風が強くなり、悪天候とまではいかないが取りあえず1268mをピークとし下山を始めました。快調に新雪を滑るように（尻滑り、スノーシュー滑り）下りてきました。登山口近くで雪崩捜索ビーコン操作実習、リュックを雪に埋めてプローブ感触体験などを行い、スノーシュー班の行程を終了しました。バスに乗り込み日勝トンネル脇駐車場で閉講式、各班の終了報告、記念写真撮影など短い時間ではありましたが、今日一番の寒さでした。

この場所で各自解散となり帰路につきました。今年度の普及委員会全事業を終えたということで、役員の皆様、冬山講習会スタッフの皆様ご苦労様でした。

**（札幌山の会 秋山）** 北海道に来て未だ北海道らしいパウダースノーを経験していなかったのも、日勝峠エリアでの研修ということで飛びつきました。下見の結果ではフカフカのパウダーということだったので、大いに期待していました。しかし、一方で未経験のパウダースノーでうまく滑れるか不安もありました。

初日、班編成で山スキー班のA班に入り、1329.2mピークを目指しました。あっという間にピークに着き、シールを外して東側の沢にドロップするのですが、いつものように最初の滑り出しの急斜面で腰が引けて、2.3ターンで見事に転びました。その後は沢の中のフカフカ雪を楽しめました。標高差300mほど降りて登り返し、熊見山との稜線の標高1250m付近に出て、シールを外して西にトラバースして登ってきたルートに合流しました。再び楽しい滑降になり、これで終わりかな？と思っていたら、西谷講師から登り返すという指示が出ました。精神的にしんどい気がしましたが、やっとスキーに乗れはじめたところだったので、この登り返しの一本は貴重で快適な一本になりました。

2日目は、ペケレベツの急な尾根を登って滑るということでしたが、バスのトラブルでスノーシュー班と同じ夏道を1343mピークまで登りました。ペケレベツの状況が悪いので、コルから東南東の沢に入ることになりました。沢に入って前日同様のフカフカの雪を期待していたところ、一部ガリガリ君があって足元を持って行かれそうになり、期待はずれな雪質でした。かなり下までフカフカとガリガリ君のミックスでしたが、登りに通過した1163mピークあたりからの斜面が雪の状況が良かったので、ここで乗り返して一本滑ったのが今日のハイライトになりました。

2日間ともほぼ実践訓練という感じの内容で、登り返しは大変だけど得るものがあることを学びました。タフな西谷講師、ありがとうございました。

## 第6回全国高等学校選抜クライミング選手権大会 H27/12/23-24 埼玉県加須市民体育館

第6回全国高等学校選抜クライミング選手権大会が、12月23日(祝)、24日(木)の二日間にわたり埼玉県加須市民体育館にて開催された。年々参加都道府県が増えており、今年度は42都道府県(昨年41)から男子40都道府県(昨年36)、83校(昨年69)、109名(昨年104)、女子36都道府県62校(昨年60)、86名(昨年84名)、合計195名(昨年188)の選手が出場した。昨年より県数で1、選手数で7名増加し、国体参加数校も男子27校、女子22校と盛況であった。(日山協HPより掲載)

### 北海道選手の成績

#### 【男子】

武者 知希 (江別高等学校 3年)	2位
高木 智和 (札幌工業高校 3年)	23位
岸本 武蔵 (美唄尚栄高校 3年)	34位
鈴木 爽 (富良野緑峰高校 3年)	74位
香川 裕登 (富良野緑峰高校 2年)	103位

#### 【女子】

小武 芽生 (北星学園女子高校 3年)	4位
北谷 未紗 (遠軽高校 1年)	27位
永野 亜弥 (遠軽高校 2年)	55位

#### 【団体戦】

富良野緑峰高校 男子団体 20位 遠軽高校 女子団体 9位



## SC 日本ユース選手権リード競技大会 3/26-27 千葉県印西市松山下総合体育館

スポーツクライミング・日本ユース選手権マムートカップ2016は、3月26日～27日、千葉県印西市松山下公園総合体育館で開催され、男女がそれぞれ4つのカテゴリーに分かれて競技した。

ジュニア男子	武者 知希 2位	ジュニア女子	小武 芽生 4位
	松浦 凌 9位	ユースA女子	北谷 未紗 17位
	高木 智和 15位	ユースB女子	佐藤いぶき 27位
ユースA男子	亀田翔太郎 34位	ユースB女子	上原子 瞳 28位
		ユースC女子	井上 桜花 12位

# 第30回北海道山岳連盟交流登山会

7月9日(土)～10日(日) 羊蹄山・ニセコ周辺

主催 北海道山岳連盟 主管 北海道山岳連盟執行部

会場 真狩村羊蹄山自然公園キャンプ場(宿泊会場)

コース A ; 五色温泉→ニセコアンヌプリ(往復)	担当 ; 札幌山岳連盟
B ; 五色温泉→イワオヌプリ→ニトヌプリ→峠	担当 ; 苫小牧山岳連盟・苫小牧山岳会
C ; 五色温泉→大沼→大谷地→神仙沼	担当 ; 岩見沢山岳連盟
D ; 湯本温泉→チセヌプリ→峠	担当 ; 恵庭山岳会・小樽山岳連盟
E ; 羊蹄山比羅夫口→羊蹄山(往復)	担当 ; 十勝山岳連盟
F ; 羊蹄山真狩口→羊蹄山(往復)	担当 ; 室蘭山岳連盟
G ; 羊蹄山京極口→羊蹄山(往復)	担当 ; 札幌山岳連盟
H ; 橈負山駐車場→尻別岳(往復)	担当 ; 釧路山岳連盟

日程 《9日》

13:00-15:00 受付、テント設営

15:10-40 リーダー会議

16:00 開会式、アトラクション他

17:00 交流会

21:00 就寝

《10日》

登山行動(閉会式はありません)

宿泊 羊蹄山自然公園キャンプ場(テント泊)

※バンガロー等はありません

定員 250名

参加料 3,000円

申込み 参加料添え(振込) 6月15日締切(申込書は道岳連HP参照)



## 美唄山登山道整備のボランティア募集

美唄山は道路工事により、研修登山の名目で年9回の入山しか許可されず、地元も整備に関わる人手が不足する現状の中、美唄山岳会が主催して6月5日(日)に山開きが開催される。それに先立ち整備を実施するため、下記により道岳連加盟団体や会員のボランティアを募集している。

日時・集合場所 平成28年5月29日(日) 午前7時30分 美唄ダム駐車場

作業内容 登山道上の笹及び枝の伐採(一般参加者対象)

※根曲り竹密集地は刈払い機使用(美唄山岳会担当)

登山届箱、看板設置(市職員、美唄山岳会担当)

コースロープ設置(美唄山岳会担当)

作業道具 折り畳み鋸 参加者各自持参(7~8個は会に在庫あり、貸出可)

連絡・問合せ先 美唄山岳会事務局 山田 恭久 ☎068-0820 岩見沢市東山7丁目13-14

携帯 090-8903-0854 Eメール [kyaabetsubatake55@yahoo.co.jp](mailto:kyaabetsubatake55@yahoo.co.jp)

## 今後の諸行事(予定)

### 道岳連総会・第1回理事会

期日 平成28年5月15日(日) 会場 札幌市教育文化会館

### 遭難対策研修会

期日 平成28年5月21日(土)-22日(日) 会場 日高登山研修所と周辺

### 登攀研修会

期日 平成28年5月28日(土)-29日(日) 会場 上滝ロック、日高青少年自然の家

### 夏山講習会Part1

期日 平成28年5月28日(土)-29日(日) 会場 於古登山&赤岩、小樽自然の村山荘

### 第3回 Jr SC 奈良杯兼 JOC Jr リンピックカップ 大会道予選会

期日 平成28年6月5日(日) 会場 美唄市体育センター

### 沢・登攀研修会

期日 平成28年6月25日(土)-26日(日) 会場 日高登山研修所

### 夏山講習会Part2

期日 平成28年7月16日(土)-17日(日) 会場 富良野岳・ニングルの森管理棟

### 第71回国体北海道予選大会

期日 平成28年7月17日(土)-18日(祝) 会場 美唄市スポーツセンター、グラビティリサーチ札幌

### 女性リーダー養成研修会

期日 平成28年7月23日(土)-24日(日) 会場 ユニ石狩岳～石狩岳縦走

### ジュニアとさん教室

期日 平成28年7月30日(土)-31日(日) 会場 室蘭岳・のぼりべつ酪農館、サンパワー  
(開催要項等は、道岳連HP各委員会のページ参照)

### 日体協公認(AC・SC)指導員養成講習会

(AC) ①6/4-5 日高登山研修所・上滝ロック ②10/8-9 日高登山研修所・上滝ロック  
③11/19-20 安政火口周辺 ④29/1/21-22 三段山

(SC) 前期 9/3-4 小樽潮陵高校・赤岩小屋 後期 11/26-27 小樽潮陵高校・赤岩小屋

カリキュラム(共通科目)35時間 (専門科目)日山協が定める講習40時間以上の受講

受講条件 (AC) ①年齢が満20歳以上(受験年度4/1)道岳連所属、推薦 ②無雪期の登山経験5年以上、11月～5月雪山登山3年以上 ③所属山岳会でリーダー経験3年以上

(SC) ①年齢が満20歳以上(受験年度4/1)道岳連所属、推薦 ②クライミング指導実績2年以上、グレード5.10をリードできると判断された者

受講料 共通科目 19,800円 専門科目 15,120円 登録料(4年間) 12,000円+α(地域岳連指定額)

申込締切 5月16日 担当;指導委員会 藤木 晴夫 〒059-0011 登別市常盤町1丁目40-4

☎&Fax 0143-85-5897 E-メール fuji8ma@nifty.com

### 道岳連だより

北海道山岳連盟広報 No.77 平成28年5月10日発行

発行 北海道山岳連盟 事務所 札幌市豊平区月寒西3条10丁目2-48

発行責任者 小野 倫夫 編集担当(総務) 内藤 美佐雄

# 北海道山岳連盟 2016

## 国民の祝日「山の日」が始まります

### 一般事業のご案内

講演会等の詳細はこちら  
<http://www.hokkaido-haa.net>

Photo: トナゾフ (札幌)

## 2020年東京オリンピックの種目候補になったスポーツクライミングとはどんな競技でしょうか？

### ボルダリング競技

高さ4m程度の壁に設置された複数のルートに、ロープを付けずに規定時間内にいくつ登れるかを競います。

### リード競技

高さ12m以上の壁を、ロープを付けて規定時間内にどこまで高く登れるかを競います。

スポーツクライミング種目拡大。壁面に設置した遠征HP「遠征委員会」まで

道産連 HP 競技委員会 検索

## 北海道山岳連盟の主な活動と目的

私たちは道内90山岳会から成る組織です。登山全般と山岳スポーツの指導・普及と環境対策や自然保護、山岳競技主催、青少年育成、海外遠征など幅広く北海道のスポーツ振興に貢献しています。

### 道産連の「個人会員」募集中です！

1. 道産連のすべての事業(講習会・研修会・交流会など)に参加できます(割引料金が適用されます)
2. 道産連発行「道産連だより」が送られます。
3. 個人の山岳活動への対応・支援が受けられます。
4. 登山について困ったことがあれば相談できます。

詳しくは担当まで！ 道産連 HP 総務委員会 検索

## 2016年 みんなで山を考えよう！ 8月11日 祝「山の日」

山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する

### ICI 万井スポーツ

山とスキーの専門店 札幌店 TEL: 011-726-2288

## あなたも山岳会に入りませんか？

### 道南

胆振山岳会  
 函楽山岳会  
 道南山岳会 (函館)  
 阿蘇山岳会  
 今山山岳会  
 江差山岳会  
 上磯山岳会  
 函館あすなろ山岳会  
 山岳会連北の山脈 (函館)  
 函館マウンテンクラブ  
 長万部山岳会  
 静山山岳会 (苫小牧)  
 王子山岳会 (苫小牧)  
 王子ネブタ山岳会 (苫小牧)  
 苫小牧山岳会  
 静内山岳会  
 滝川山岳会  
 樺山山岳会  
 新庄山岳会  
 新友山岳会  
 室蘭山岳会  
 ほまなま野郎  
 登別山岳会  
 登別山岳会

### 道東

帯広山岳会  
 帯広市役所山岳会  
 青森山岳会  
 中札内山岳会  
 足寄山岳会  
 新得山岳会  
 芽室山岳会  
 ほしがら山岳会 (帯広)  
 本別山岳会  
 陸別北山岳会  
 網走クラマーズネットワーク  
 網走市役所山岳会  
 網走山岳会  
 網走山岳会  
 網走グレイシャー山岳会  
 網走山岳会 (岩見沢)  
 若見沢市役所山岳会  
 若見沢山岳会  
 北広島山岳会  
 北広島山岳会  
 北見山岳会  
 北見クワンリ  
 北見 FSI 山岳会

### 道北

道北山岳会  
 旭川山岳会  
 旭川山岳会 (滝川)  
 旭川山岳会  
 深毛山岳会  
 留萌山岳会  
 レインボークラブ (江別)

### 道央

小樽山岳会  
 小樽山岳会  
 小樽カシオ山岳会  
 小樽野郎クラブ  
 小樽登山部  
 こぶし山岳会 (岩見沢)  
 若見沢市役所山岳会  
 若見沢山岳会  
 北広島山岳会  
 北広島山岳会  
 北見山岳会  
 北見クワンリ  
 北見 FSI 山岳会

各山岳会の問い合わせ先は道産連 HP へ

## 夏山講習会

安全で快適な夏山登山に向けて

※ 現地では小グループに分かれて行動します

### Part I

5/28 ~ 29 (土・日)  
 赤岩も軽装(旭谷丸山〜於古丸山)  
 「初めての岩登り」  
 登山道に岩場が出てきたら!? どうするかを学ぼう!  
 コツを伝授します!

費用 15,000円 (会費13,000円)  
 小樽自然の村 食事 2食付  
 小樽市役所 食事 2食付  
 小樽市役所 食事 2食付

### Part II

7/16 ~ 17 (土・日)  
 断崖へ登って富良野谷〜十勝岳温泉  
 「花の富良野谷」  
 川に沿った登山道って? どう歩く?  
 言葉にできない花の美!

費用 13,000円 (会費11,000円)  
 ニンゴルの高原 食事 2食付  
 富良野 食事 2食付  
 富良野 食事 2食付

### Part III

9/17 ~ 18 (土・日)  
 登山が好きな人なら憧れの  
 西別岳と 武佐岳 摩周岳  
 (現地情報で山を決めます)

費用 13,000円 (会費11,000円)  
 西別村 食事 2食付  
 西別村 食事 2食付  
 西別村 食事 2食付

★ 星の降る道東の夜は、静かな山麓の小屋で

夏山講習の詳細とお申し込みはこちらへ  
 道産連 HP 普及委員会 検索

このマークのある事業は 道産連会員は観覧からパスの対応があります(有料)

## 平成 28 年度 講習会・研修会・行事のご案内

### ジュニア登山教室 2016

7/30 ~ 31 (土・日) [白山運動会事業]

※ 小・中学生と保護者の方が対象です

1日 山の勉強、スポーツクライミング  
 2日 室蘭岳の登山

自然や登山から多くのことを学べます。念願の山に挑戦し、初めて出会うお友達と楽しいひと時を過ごしましょう!

費用 大人 4,000円 15歳 子供 3,000円  
 室蘭山麓総合公園 サンパワ 380 (室蘭市)  
 食事 2食付

詳細は道産連ホームページへ  
 道産連 HP ジュニア委員会 検索

### 遭難対策研修会

夏期 5/21 ~ 22 (土・日)

ロープワーク技術(登攀と自己脱出)とセルフレスキューの演習! 遭難技術の身に付け、より高い山を目指す。一般登山者歓迎です!

費用 5,500円 (会費4,500円) 道産連HP研修所 食事 2食付  
 11月開催予定

冬期 12/10 ~ 11 (土・日)

冬期登山に合わせた遭難対策技術を研修します。(詳細は未定)

費用 2,500円 (会費1,500円) 道産連HP研修所 食事 2食付

### 安全登山シンポジウム

好評です! 安全登山シンポジウム

三浦健一郎 八本原國明  
 山を知り尽くす達人と共に安全登山、登山の魅力を探る!

佐々木大輔 新谷新造  
 山村新造

11月開催予定  
 道産連 HP 遭難対策委員会 検索

## 「山の日」特別事業

7月10日~9月11日 道内山岳会が一般募集登山会を開催、市民登山も随時実施予定  
 8月11日は自治体等で記念事業を検討中

### 高所登山教室 8/25 ~ 28 (木~日)

山岳連で自力、観衆の力を体験! 海外登山の経験豊富な指導者による、登山技術と自然解説  
 富士登山 1 目目「浅間神社」から登る

費用 参加料未定  
 道産連 HP 海外登山委員会 へ  
 道産連 HP 海外登山委員会 検索

### 北海道アウトドアフェスティバル2016

in 9/24 ~ 25 (土・日)

ロゲイニング & トレイルランニング  
 50マイル (80km)  
 60km・30km・16km・キッズ

参加者募集中  
 詳細とお申し込みはHPから!  
<http://hokkaidooutdoorfestival/2016/>

## 冬山講習会

雪山を楽しむのに欠かせない知識と技術を

※ Part1~2は連続した内容になっていますのでできるだけ連続して参加してください

### 29年 2/4 ~ 5 (土・日)

羊蹄山麓はいい雪たっぷり! 雪崩、イグルー作りも楽し!

費用 13,000円 (会費11,000円)  
 スノーシュー&山スキー 食事 2食付  
 札幌山の会(富良野) 食事 2食付  
 富良野の町で飯内 BBQ 食事 2食付

### 29年 3/4 ~ 5 (土・日)

「森とパウダー魅力の日勝峠」  
 何度登っても魅力の北白濁  
 こしこの雪山絶景だ!

費用 13,000円 (会費11,000円)  
 スノーシュー&山スキー 食事 2食付  
 日高青年の家 食事 2食付  
 日高青年の家 食事 2食付

詳細とお申し込みはこちらへ  
 道産連 HP 普及委員会 検索

さあ 山へ行かなくちゃ!